

第3章 工場・事業場の監視・指導状況

概要

工場等の排水等に係る監視業務として、法・条例に基づき工場等の設置許可指導、排水等の検査による基準遵守の監視、排水基準違反に対する改善指導等を実施した。

水質総量規制に係る監視業務として、対象工場等からの報告書に基づいて化学的酸素要求量（COD）、窒素含有量及びりん含有量の汚濁負荷量（以下「汚濁負荷量」という。）を監視するとともに、排水量5,000m³/日以上かつCODの汚濁負荷量が50kg/日以上の工場等に対しては、発生源水質自動監視システム（以下「システム」という。）による監視を実施した。

そのほか、油浮遊などの水質事故調査、八都県市首脳会議の合意による東京湾富栄養化対策の推進等を実施した。

背景

法及び条例に基づく排水基準は、工場等からの排水等の水質を規制することによって公共用水域の水質汚濁を防止し、市民の健康を保護するとともに、生活環境を保全することを目的として設定されている。

本市における水質汚濁の状況は、昭和20年代の産業復興の時代、昭和30、40年代の経済の飛躍的発展の時代において、工業化及び都市化が進行したことにより顕在化してきた。

公共用水域には維持することが望ましい水質レベルとして環境基準が定められており、環境基準を指標として、公共用水域の水質を監視している。

平成17年度の公共用水域の水質測定結果によると、シアン、カドミウム等の健康項目では、河川、海域の全ての地点で環境基準を達成している。

生活環境項目では河川のBODについては、川崎市河川水質管理計画に定める環境目標の適合率が75%（平成16年度は92%）であり、海域のCODについては、環境基準の適合率が100%（平成15年度以降は100%）であった。

さらに、全窒素・全燐については、海域の12測定地点のうち全窒素が1地点で環境基準に適合し、また全燐が2地点で適合していたのみであり、公共用水域の保全が十分とはいえない状況にある。このような背景により、水質汚濁の要因となる工場等の排水の監視を行った。

法・条例による監視・指導

1 届出状況

平成17年度における法に基づく届出件数は200件あり、このうち法第10条（氏名の変更，特定施設の廃止等）の届出件数が88件と最も多く、次いで、法第5条（特定施設の設置）の届出件数が54件、法第7条（特定施設の構造及び排水系統等の変更）の届出件数が35件、法第11条（承継）の届出件数が10件、法第14条第3項（汚濁負荷量の測定手法）の届出件数が13件であった。

また、区別では、川崎区が150件と最も多く、次いで高津区が22件、宮前区が12件、多摩区が7件、麻生区が5件、中原区が3件、幸区が1件であった。（表 - 1）

法に基づく特定事業場数は、平成18年3月31日現在で895社あり、区別にみると中原区が最も多く223社で、次いで高津区が192社、多摩区が132社となっており、幸区が最も少なく15社であった。(表 - 2)

特定事業場を排水規模別に区分すると、日平均排水量が50m³/日未満のものが828社、50m³/日以上400m³/日未満のものが22社、400m³/日以上のもので45社であった。400m³/日以上のものは臨海部の工場等が9割以上を占めていた。(表 - 2)

特定事業場をその工場等の代表的な特定施設でみると、洗濯業の用に供する洗浄施設(特定施設番号67)を有するものが262社、自動式車両洗浄施設(特定施設番号71)を有するものが134社、豆腐又は煮豆の製造業の用に供する湯煮施設(特定施設番号17)を有するものが78社、指定地域特定施設(処理対象人員が201人以上500人以下のし尿浄化槽)を有するものが65社等であった。(表 - 3)

なお、これらの特定事業場数には公共下水道の分流区域に所在し、公共下水道に排出しているものが含まれている。

2 立入検査・調査

(1) 法令等に基づく排水基準等の監視

法及び条例に基づいた工場等の排水等について、排水基準等の遵守状況を監視するため、工場等に対して立入検査を行い、排水口において排水を検査した。

検査数は、夜間検査(5社6検体)を含め延べ231社、399検体、3,577項目であった。このうち排水基準等に違反した工場等は延べ25社あり、違反率は10.8%であった。業種別では金属製品製造業と倉庫業が共に6社と最も多く、次いで化学工業とクリーニング業が3社であった。(表 - 4, 5, 6, 7, 図 - 1)

(2) ダイオキシン類に係る立入検査

ダイオキシン類対策特別措置法に基づく特定事業場は24社で、そのうち、5社に立入検査を実施した。

(3) その他の立入検査等

法及び条例の届出、申請に基づく工場等の確認検査が75社、廃止未届け事業場現場確認調査が83件、水質事故に係る立入検査が6社であった。(表 - 4)

3 行政措置の状況

排水基準等の違反、水質関係事故等のあった工場等に対しては、公害防止体制の強化並びに、排水処理施設の改善及び維持管理の徹底等について指導を行っているが、平成17年度においては、法及び条例に定める排水基準に違反した23社に対して文書指導を行い、2社に対して口頭指導を行った。(表 - 5)

4 水質総量規制基準等の監視

人口・産業等が集中し汚濁の著しい東京湾・伊勢湾・瀬戸内海の広域的な閉鎖性水域の実効ある水質改善を図るため、昭和53年6月にCODを指定項目とする水質総量規制が導入され、平成14年10月からは窒素含有量、りん含有量も含めた第5次総量規制が施行された。

水質総量規制の対象工場等は、日平均排水量が50m³以上の指定地域内の特定事業場で、汚濁負荷量（特定排出水の濃度×特定排出水の量）の測定義務が課せられている。

また、汚濁負荷量の排出許容量が定められており、特定事業場から報告される汚濁負荷量測定結果報告書に基づいて遵守状況を監視した。平成17年度は、63社から1日当り8.8tのCOD、14.8tの窒素、0.63tのりんが排出された。

5 水質事故処理状況及び苦情処理状況

水質事故は32件発生しており、流域別では多摩川水系が13件、鶴見川水系が6件及び海域が13件であった。なお、地下浸透に係る事故の発生はなかった。事故の種類別では、油浮遊が21件と最も多く、次いで着色水が5件、濁水が5件、その他水質異常が1件であった。原因が判明した水質事故は18件で、工場・事業場によるものが10件、建設工事が3件及び船舶によるものが2件、その他の原因が3件であった。（表 - 8）

苦情発生件数は5件であった。原因別の苦情内容は、悪臭が2件、油浮遊、着色水及び濁水が各1件であった。（表 - 9）

6 工場・事業場の監視・指導関連資料

表	1	水質汚濁防止法に基づく届出件数	100
表	2	排水量規模別特定事業場数	100
表	3	特定施設別特定事業場数	101
表	4	立入検査等種類別工場等数	103
表	5	行政措置状況	103
表	6	排水水等検査数	104
表	7	排水基準違反項目別工場等数	104
図	1	排水基準等違反事業場の業種別内訳	103
表	8	水質事故状況	106
表	9	苦情発生状況	108

表 - 1 水質汚濁防止法に基づく届出件数

条 項 区 名	第5条	第6条	第6条 第3項	第7条	第10条	第11条	第14条 第3項	計
	設 置	使 用	経過措置	構 造 及 び 排 水 系 統 の 変 更	氏 名 変 更 及 び 廃 止	承 継	測 定 手 法	
川崎区	45	0	0	32	55	5	13	150
幸 区	0	0	0	0	1	0	0	1
中原区	1	0	0	0	2	0	0	3
高津区	5	0	0	2	14	1	0	22
宮前区	1	0	0	1	6	4	0	12
多摩区	1	0	0	0	6	0	0	7
麻生区	1	0	0	0	4	0	0	5
合 計	54	0	0	35	88	10	13	200

表 - 2 排水量規模別特定事業場数

区 名 排水量	川崎区	幸 区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	合 計
	50m ³ /日未満	75 (15)	13 (0)	222 (8)	191 (23)	121 (9)	131 (4)	
0~400m ³ / 日未満	15 (5)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	22 (6)
400m ³ /日以上	42 (25)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	45 (28)
合 計	132 (44)	15 (1)	223 (9)	192 (24)	124 (9)	132 (4)	77 (2)	895 (93)

注：()内は、有害物質を使用する特定事業場数

表 - 3 特定施設別特定事業場数

代表特定施設又は代表特定施設に係る業種		特定事業場数	
		5 0m3 / 日以上	
1	鉱業・水洗炭業		
1の2	畜産農業	1	3
2	畜産食料品製造業	2	
3	水産食料品製造業	1	
4	保存食料品製造業	3	
5	みそ・しょう油・食用アミノ酸・グルタミン酸・ソース・ソーダ・食酢製造業	5 (1)	1 (1)
6	小麦粉製造業		
7	砂糖製造業		
8	パン・菓子製造業・製あん業	1	
9	米菓製造業・こうじ製造業	1	
10	飲料製造業	1	
11	動物系飼料・有機質肥料製造業	1	1
12	動植物油脂製造業	1	
13	イースト製造業		
14	でん粉・化工でん粉製造業		
15	ぶどう糖・水あめ製造業		
16	めん類製造業	1	8
17	豆腐・煮豆製造業	7	8
18	インスタントコーヒー製造業		
18の2	冷凍調理食品製造業	2	
18の3	たばこ製造業		
19	紡績業，繊維製品の製造・加工業	6	
20	洗毛業		
21	化学繊維製造業		
21の2	一般製材業・木材チップ製造業		
21の3	合板製造業		
21の4	パーティクルボード製造業		
22	木材薬品処理業		
23	パルプ・紙・紙加工品製造業	1	1
23の2	新聞業・出版業・印刷業・製版業	4	
24	化学肥料製造業	1 (1)	1 (1)
25	か性ソーダ・か性カリ製造業		
26	無機顔料製造業		
27	その他の無機化学工業製品製造業		
28	カーバイド法アセチレン誘導品製造業		
29	コールタール製品製造業		
30	発酵工業		
31	メタン誘導品製造業		
32	有機顔料・合成染料製造業		
33	合成樹脂製造業	1	1 (3)
34	合成ゴム製造業	2 (1)	2 (1)
35	有機ゴム薬品製造業		
36	合成洗剤製造業	1	1
37	その他の石油化学工業	1	0 (7)
38	石けん製造業		
39	硬化油製造業		
40	脂肪酸製造業		
41	香料製造業		
42	ゼラチン・にかわ製造業		
43	写真感光材料製造業	1	
44	天然樹脂製品製造業		
45	木材化学工業		
46	その他の有機化学工業製品製造業	6 (3)	3 (3)

代表特定施設又は代表特定施設に係る業種		特定事業場数	
		5 0 m3 / 日以上	
47	医薬品製造業	1	
48	火薬製造業		
49	農薬製造業		
50	試薬製造業		
51	石油精製業	3 (2)	3 (2)
51の2	自動車用タイヤ・チューブ, ゴムホース, 工業用ゴム, 更生タイヤゴム板製造業		
51の3	医薬用・衛生用ゴム製品, ゴム手袋, 糸ゴム, コムバンド製造業		
52	皮革製造業		
53	ガラス・ガラス製品製造業	7 (1)	2 (1)
54	セメント製品製造業	2	
55	生コンクリート製造業	1 5	
56	有機質砂かべ材製造業		
57	人造黒鉛電極製造業		
58	窯業原料精製業	1	
59	砕石業	1	1
60	砂利採取業	1	
61	鉄鋼業	8 (4)	4 (3)
62	非鉄金属製造業	1	
63	金属製品製造業・機械器具製造業	1 1 (2)	
63の2	空きびん卸売業		
64	ガス供給業・コークス製造業		
64の2	水道施設・工業用水道施設・自家用工業用水道	5	
65	酸・アルカリによる表面処理施設	4 5 (1 4)	5 (5)
66	電気めっき施設	1 6 (4)	2 (1)
66の2	旅館業	4 1	
66の3	共同調理場		
66の4	弁当仕出屋・弁当製造業	3	
66の5	飲食店	1	
66の6	そば店・うどん店・すし店・喫茶店		
66の7	料亭・バー・キャバレー・ナイトクラブ		
67	洗たく業	2 6 2 (3 1)	
68	写真現像業	2 0	
68の2	病院	7	
69	と畜業・死亡獣畜取扱業		
69の2	中央卸売市場	1	1
69の3	地方卸売市場		
70	廃油処理施設	1	1
70の2	自動車分解整備事業	3	
71	自動式車両洗淨施設	1 3 4	1
71の2	研究・試験・検査・専門教育機関	3 1 (7)	1 (1)
71の3	一般廃棄物処理施設	3	
71の4	産業廃棄物処理施設	9 (5)	2 (1)
71の5	トリクロロエチレン又はテトラクロロエチレンによる洗淨施設	4	
71の6	トリクロロエチレン又はテトラクロロエチレンによる蒸留施設	1	
72	し尿処理施設	1 0	2
73	下水道終末処理施設	4 (4)	4 (4)
74	共同処理施設	7	4
	指定地域特定施設	6 5	6
合 計		8 9 5 (5 9)	6 7 (3 4)

注:()内の値は、有害物質を使用する特定事業場数

表 - 4 立入検査等種類別工場等数

	法対象工場等		条例その他工場等	
	立入数	分析数	立入数	分析数
排水検査（昼間）	225	217	18	18
（夜間）	2	2	0	0
法及び条例の届出確認等	75		2	
ダイオキシン類対策特別措置法届出確認	4			
水質事故調査	1		3	
合計	307	219	23	18

表 - 5 行政措置状況

措置内容	適用法令	件数
停止命令及び改善命令	法第13条第1項	0
	条例第54条第1項	0
文書指導		24
口頭指導		1
計		25

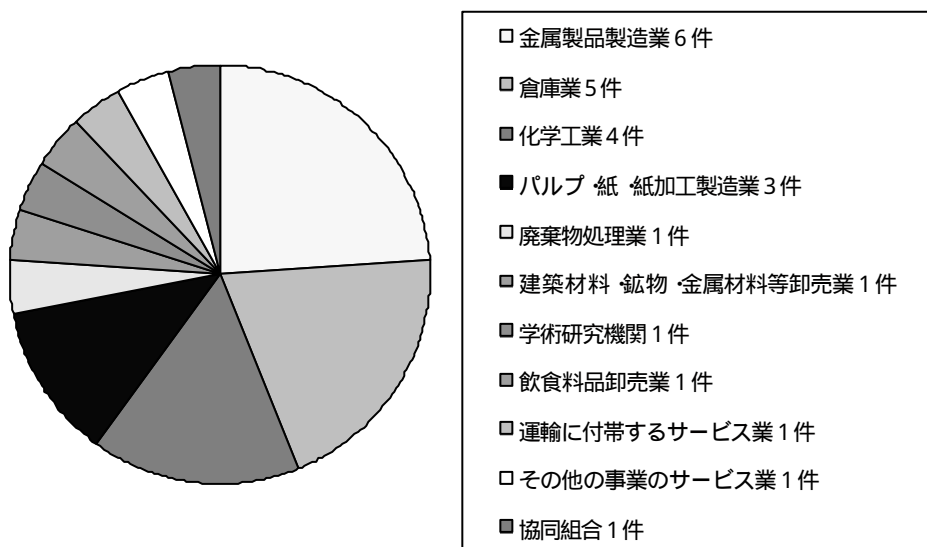


図 - 1 排水基準等違反事業場の業種別内訳

表 - 6 排水等検査数

項目 調査区分		工場等数	検体数	生活環境項目						特殊項目									
				pH	COD	BOD	浮遊物質 質量	n-ヘキサン	全窒素	全燐	フェノール類	銅	亜鉛	溶解性鉄	溶解性マンガン	クロム	ニッケル	色汚染度	水温
昼間	海域 (50m ³ 以上/日)	136	290	289	286	5	10	6	256	256	28	44	44	49	42	49	46	0	289
	海域 (50m ³ 未満/日)	50	53	52	26	0	1	1	0	0	0	12	12	12	12	12	12	0	53
	河川 (50m ³ 以上/日)	16	26	26	26	25	21	10	24	24	10	10	10	10	10	10	10	0	26
	河川 (50m ³ 未満/日)	24	24	23	7	3	2	0	0	0	0	15	15	15	15	15	15	0	24
夜間	海域 (50m ³ 以上/日)	5	6	6	6	0	1	1	6	6	1	2	3	2	2	3	2	0	6
	河川 (50m ³ 以上/日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		231	399	396	351	33	35	18	286	286	39	83	84	88	81	89	85	0	399

表 - 7 排水基準違反項目別工場等数

項目 業種		工場等数	検体数	生活環境項目						特殊項目								
				pH	COD	BOD	浮遊物質 質量	n-ヘキサン	全窒素	全燐	フェノール類	銅	亜鉛	溶解性鉄	溶解性マンガン	クロム	ニッケル	色汚染度
金属製品製造業		6	6	2							1	1				1		
倉庫業		6	6		5	1	1			1								
化学工業		3	3		1				1							1		
クリーニング業		3	3	3	3													
その他		7	7	1	4				2	2								
合計		25	25	6	13	1	1		3	3	1	1				2		

有 害 物 質																									
カドミウム	シアン	有機燐	鉛	六価クロム	砒素	総水銀	PCB	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	ジクロロメタン	四塩化炭素	1,2ジクロロエタン	1,1ジクロロエチレン	1,1,2ジクロロエチレン	1,1,1トリクロロエタン	1,1,2トリクロロエタン	1,3ジクロロプロペン	チウラム	シマジン	チオベンカルブ	ベンゼン	セレン	ふつ素	ほう素	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物
12	24	0	28	26	13	5	8	48	48	48	48	48	10	10	48	48	4	4	4	4	56	9	44	20	2
14	8	0	14	12	5	1	1	12	12	10	12	10	0	0	12	10	0	0	0	0	8	0	4	0	5
10	10	0	12	12	10	10	10	14	14	14	14	14	12	12	14	14	10	10	10	10	12	10	12	14	0
13	8	0	13	15	0	0	0	9	10	9	9	9	0	0	9	9	0	0	0	0	0	0	5	4	10
2	2	0	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	1	1	2	2	1	0	0	0	2	2	3	2	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
51	52	0	69	67	30	18	20	85	86	83	85	83	23	23	85	83	15	14	14	14	78	21	68	40	17

有 害 物 質																										
カドミウム	シアン	有機燐	鉛	六価クロム	砒素	総水銀	PCB	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	ジクロロメタン	四塩化炭素	1,2ジクロロエタン	1,1ジクロロエチレン	1,1,2ジクロロエチレン	1,1,1トリクロロエタン	1,1,2トリクロロエタン	1,3ジクロロプロペン	チウラム	シマジン	チオベンカルブ	ベンゼン	セレン	ふつ素	ほう素	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	
									1														2		2	
				1																						
																						1				
			1						1													1	2			2

表 8 水質事故処理状況

No.	発生年月日	発生場所	事故概要	事故原因	事故時の措置・対策の内容
1	17・ 4・ 4	平瀬川 (宮前区菅生)	着色水	不明	現地調査
2	17・ 4・ 4	平瀬川 (宮前区水沢)	濁水	沈砂槽集水柵から濁水が漏洩	報告書の提出を指示
3	17・ 4・ 16	京浜運河 (川崎区扇島)	pH異常	ボイラー設備からpH5.3の排水が流出	報告書の提出を指示
4	17・ 4・ 21	平瀬川 (宮前区菅生)	油浮遊	不明	現地調査
5	17・ 5・ 2	鶴見川 (麻生区岡上)	油浮遊	廃油を水路に投棄	再発防止対策の指示
6	17・ 5・ 2	真福寺川 (麻生区下麻生)	油浮遊	軽油溜め柵の破損	油の回収及び報告書の提出を指示
7	17・ 5・ 26	二ヶ領用水 (高津区北見方)	着色水	工事現場から塗料が流出	再発防止対策の指示
8	17・ 6・ 9	二ヶ領用水 (中原区宮内)	油浮遊	油水分離槽から油が漏洩	吸着マットで流出を遮断し、油水分離槽の清掃及び再発防止対策を指示
9	17・ 6・ 9	川崎港 (川崎区浮島)	油浮遊	不明	現地調査
10	17・ 6・ 21	旧三沢川 (多摩区菅北浦)	着色水	工事現場から塗料が流出	再発防止対策の指示
11	17・ 6・ 28	五反田川 (多摩区生田)	濁水	不明	現地調査
12	17・ 7・ 2	池上運河 (川崎区浅野)	油浮遊	不明	現地調査
13	17・ 7・ 6	矢上川 (幸区矢上)	油浮遊	不明	現地調査

No.	発生年月日	発生場所	事故概要	事故原因	事故時の措置・対策の内容
14	17・ 7・ 7	京浜運河 (川崎区扇町)	油浮遊	船舶燃料の給油中に重油が流出	オイルマットを展張して油を回収し、報告書の提出を指示
15	17・ 7・ 8	千鳥運河 (川崎区夜光)	油浮遊	船舶の荷役中に原料が流出	吸着マットで油を回収し、報告書の提出を指示
16	17・ 7・11	千鳥運河 (川崎区夜光)	油浮遊	不明	船舶で放水・走行拡散
17	17・ 8・ 9	片平川 (麻生区片平)	濁水	貯水槽から濁水が漏洩	再発防止対策の指示
18	17・ 8・17	早野川 (麻生区片平)	油浮遊	トラック燃料タンクの破損	雨水側溝の清掃及び報告書の提出を指示
19	17・ 8・25	白石運河 (川崎区白石)	油浮遊	合成ゴムタンクの横転	土嚢で流出を遮断し、報告書の提出を指示
20	17・10・ 6	京浜運河 (川崎区千鳥)	油浮遊	絶縁トランスの破損	船舶で放水・走行拡散し、報告書の提出を指示
21	17・10・21	境運河 (川崎区白石)	油浮遊	塗料を水路に投棄	塗料の回収及び報告書の提出を指示
22	17・12・ 2	川崎港 (川崎区浮島)	油浮遊	不明	船舶で走行拡散
23	17・12・ 7	二ヶ領用水 (高津区溝口)	油浮遊	不明	現地調査
24	18・ 1・ 6	白石運河 (川崎区白石)	油浮遊	トラックからエンジンオイルが漏洩	吸着マットで油を回収
25	18・ 1・10	五反田川 (多摩区枳形)	濁水	不明	現地調査
26	18・ 1・10	平瀬川 (宮前区菅生)	着色水	塗料缶の破損及び塗料の投棄	始末書の提出を指示
27	18・ 1・13	二ヶ領本川 (多摩区菅稲田堤)	油浮遊	不明	吸着マットで油を回収

No.	発生年月日	発生場所	事故概要	事故原因	事故時の措置・対策の内容
28	18・ 1・16	矢上川 (宮前区野川)	油浮遊	不明	オイルマットを展張して油を回収
29	18・ 2・20	池上運河 (川崎区水江)	油浮遊	不明	現地調査
30	18・ 2・21	平瀬川 (宮前区水沢)	濁水	工事現場から濁水が流出	再発防止対策の指示
31	18・ 3・13	大師運河 (川崎区千鳥町)	油浮遊	廃棄用マーガリンが漏洩	オイルマットで油を回収し、報告書の提出を指示
32	18・ 3・30	平瀬川 (宮前区菅生)	着色水	不明	現地調査

表 9 苦情発生状況

No.	発生年月日	発生場所	内容	原因	指導・対策
1	17・ 5・27	麻生区王禅寺	悪臭	清掃作業の排水が流出	下水道へ排水
2	17・ 6・ 1	宮前区水沢	濁水	泥を含んだ雨水が流出	排水管理の徹底
3	17・ 8・ 1	高津区下作延	着色水	洗浄作業の排水が流出	作業方法の改善
4	17・ 8・17	幸区矢上	油浮遊	油を含んだ雨水が流出	油水分離槽へ排水
5	17・11・14	高津区諏訪	悪臭	冷却水の排水が流出	排水路の変更

発生源自動監視システムによる監視

1 監視状況

昭和53年6月、法の一部改正により、人口・産業等が集中し汚濁の著しい広域的な閉鎖性水域（東京湾、伊勢湾、瀬戸内海）の水質改善を図るため、従来の濃度規制に加え、CODに係る水質総量規制が導入された。

本市では、総量規制の遵守状況の把握を目的として、対象工場等のうち、排水量が5,000m³/日以上で、かつCODの汚濁負荷量が50kg/日以上工場等を対象に、昭和58年からシステムによるCOD総汚濁負荷量の排出状況を常時監視している。また、法の一部改正により、指定項目（規制項目）に窒素含有量とりん含有量が追加されたことから、平成16年9月1日から全窒素総汚濁負荷量及び全りん総汚濁負荷量の排出状況の常時監視を開始した。

平成17年度の常時監視対象事業場数は18事業場（表 -1）となっており、本市の対象工場等から排出される全汚濁負荷量の8割以上をシステムにより把握している。

表 - 1 システム対象工場等（平成18年3月末現在）

番号	工場等名	業種 ^{*1}
1	昭和電工（株）川崎製造所	化学工業
2	昭和電工（株）千鳥製造所	化学工業
3	旭化成ケミカルズ（株）川崎製造所	化学工業
4	日本ゼオン（株）川崎工場	化学工業
5	川崎化成工業（株）川崎工場	化学工業
6	新日本石油化学（株）川崎事業所浮島工場	化学工業
7	新日本石油化学（株）川崎事業所川崎工場	化学工業
8	味の素（株）川崎事業所	食料品製造業
9	（株）YAKIIN川崎	鉄鋼業
10	JFEスチール（株）東日本製鉄所（京浜地区）	鉄鋼業
11	東燃ゼネラル石油（株）川崎工場	石油製品製造業
12	東亜石油（株）京浜製油所水江工場	石油製品製造業
13	東亜石油（株）京浜製油所扇町工場	石油製品製造業
14	川崎市入江崎水処理センター	水道業
15	川崎市加瀬水処理センター	水道業
16	川崎市等々力水処理センター	水道業
17	川崎市麻生水処理センター	水道業
18	三栄レギュレーター（株）東京工場	製紙業

備考）*1 業種は、総務省『日本標準産業分類』の中分類による。

*2 全窒素総汚濁負荷量及び全りん総汚濁負荷量の常時監視は、東燃ゼネラル石油（株）川崎工場を除く。

2 監視結果

(1) 経年変化等の状況

平成17年度のCOD総汚濁負荷量は7.92t/日で、前年度と比べて0.31t/日増加した。また、過去10年のピークである平成9年度と比較すると、18%減少している。平成16年9月から常時監視を開始した全窒素総汚濁負荷量及び全りん総汚濁負荷量は、13.84t/日及び0.57t/日であった。

表 - 2 システム対象工場等の排出状況

年度	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
排水量 ($\times 10^5\text{m}^3/\text{日}$)	7.00	7.27	7.21	6.96	7.02	6.99	6.73	6.76	6.52	6.62
COD総汚濁負荷量 (t/日)	9.40	9.65	9.26	8.60	8.62	8.32	7.87	8.10	7.61	7.92
全窒素総汚濁負荷量 (t/日)	-	-	-	-	-	-	-	-	14.11	13.84
全りん総汚濁負荷量 (t/日)	-	-	-	-	-	-	-	-	0.53	0.57

備考)排水量は、特定施設から生じる排水量であり、特定事業場の排出口における水量とは異なる。

平成17年度のシステム対象工場等における常時監視の結果、排出が許容される汚濁負荷量を超過した工場等はなかった。

(2) 業種別負荷量排出状況

平成17年度の業種別汚濁負荷量は、CODでは、水道業が4.44 t/日で業種別汚濁負荷量の56%、化学工業が1.97 t/日で同25%を占め、この2業種で81%を占めている。全窒素では、水道業が7.19 t/日で業種別汚濁負荷量の52%、化学工業が3.64 t/日で同26%を占め、この2業種で78%を占めている。全りんでは、水道業が0.53 t/日で業種別汚濁負荷量の92%を占めている。(表 - 3)

表 - 3 業種別汚濁負荷量

単位：t / 日

業種別	水道業	化学工業	その他*1	総汚濁負荷量
工場等数	4	7	7	18
COD総汚濁負荷量	4.44	1.97	1.52	7.92
全窒素総汚濁負荷量	7.19	3.64	3.02	13.84
全りん総汚濁負荷量	0.53	0.04	0.01	0.57

*1 鉄鋼業、食料品製造業、製紙業及び石油製品製造業

(3) 月別排出状況

月別の総汚濁負荷量は、CODでは最大が3月の8.21 t / 日、最小が5月の7.47 t / 日、全窒素では最大が5月の15.34 t / 日、最小が8月の12.82 t / 日、全りん最大が1月の0.69 t / 日、最小が7月の0.51 t / 日であった。

表 - 4 月別排出状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
排水量 ×10 ⁵ m ³ /日	6.53	6.34	6.96	7.18	6.90	7.00	7.15	6.23	5.99	6.05	6.52	6.64	6.53
COD総汚濁 負荷量 t / 日	7.84	7.47	7.84	8.19	8.09	8.04	8.10	7.78	7.87	7.86	7.77	8.21	7.84
全窒素総汚濁 負荷量 t / 日	15.24	15.34	14.21	13.75	12.82	12.99	13.16	12.89	13.86	13.87	13.49	14.43	15.24
全りん総汚濁 負荷量 t / 日	0.57	0.52	0.54	0.51	0.55	0.55	0.57	0.55	0.52	0.69	0.65	0.65	0.57

備考) 排水量は、特定施設から生じる排水量であり、特定事業場の排出口における水量とは異なる。

3 まとめ

平成17年度におけるシステムによる監視結果は次のとおりである。

- (1) システム対象工場等(18)において、排出が許容される汚濁負荷量を超過したものはなかった。
- (2) システム対象工場等(18)の総汚濁負荷量は、CODが7.92 t / 日、全窒素が13.84 t / 日、全りんが0.57 t / 日であった。
- (3) 業種別では、水道業がCODで56%を、全窒素で52%を、全りんが92%を占めていた。